銚子支部組合員にみたび訴える

日刊 動労千葉
80.11.20
No. 587
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四三（22）七二〇七

動労千葉に結集し共に闘おう

◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇

国鉄当局は、動労「本部」反動分子による「九月裏切り妥結」に鼓舞され、東鉄三局における乗務員運用合理化十月一日実施をテコに千葉局の十一月一日強行実施の攻撃を加えてきました。具体的には千葉局総体として乗務員四六名減（銚子関係仕業二、予備一減）を提案してきたのです。これに対し動労千葉は十月十五日、第十回支部代表者会議を開催し、今回の乗務員運用合理化は国鉄三五万人体制攻撃の主要な一環としてあるばかりでなく、自らの東京「九月裏切り妥結」をおしかくし、ごまかそうとする「本部」反動分子・当局一体の極めて政治的な攻撃であり、さらに八一・三ジェット燃料延長阻止闘争をたたかわんとするわが動労千葉に対する組織破壊攻撃であるとうけとめ、総力をあげて闘い抜くことを決定してきました。全支部での職場集会の開催、一〇・二七局前集会への総決起等々、臨戦体制を整える中で、連日の団交で当局を追いつめ「十一月一日」そして、更に「十一月十五日」と強行実施策動を次々と打ち破り、現在、「十二月一日」実施阻止へむけ奮闘しています。

◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇*◇

「本部」反動分子の裏切り行為は、増々明らかである。

こうした闘いの中で「本部」反動分子の実態が増々明らかになりました。

自らが「九月東鉄三局裏切り妥結」を行い、その条件として千葉にも運用合理化を国鉄当局に強要しておきながら、銚子支部の利益を守るかの如く粧うペテンとギマン性については先の訴えで指摘した通りですが、乗務員運用合理化をめぐる状況の中でそれは増々鮮明につきだされています。

実際、「三信ビル」（「本部」津田沼事務所）に巣くう「本部」革マル分子は、動労千葉の闘いによって十一月十五日運用合理化実施が不可能となったことを知るや、烈火の如く怒り、「千葉は何故実施できないのか」と当局に当り散らし、早く乗務員運用合理化を実施せよと当局に要求するしまつなのです。

この辺のいきさつは、最近、「三信ビル」に出入りした銚子のK・S両君がよく承知している筈です。しかも、「当局が修正提案が出来ないならば、原案通り運用合理化を強行しろ」とさえ口走り、他労組からもひんしゅくを買うしまつです。

これは、「本部」反動分子が、昨年八月動労東京地本大会で「協定外の労働条件ははきだす」という、かの有名な乗務員運用合理化率先協力の方針を打ち出した労働組合ならざる労働組合の当然の結果であります。

この様な、合理化協力、国鉄労働者の職場と利益を売り渡す連中に銚子支部の利益が守れるのでしょうか。

「本部」反動分子の合理化先導路線に、銚子の運命をゆだねることはできない。

乗務員運用合理化攻撃は決して今回だけで終るものではありません。国鉄当局は、S五七年度中に「内達一号の改悪」「ダイヤ作成規準の改悪」を行い、全国一せいに運用合理化を強行しようとしており、千鉄局においては「五六・一〇総武線復々線化完了」「五八・一〇外房線復線化」の際には再度の運用合理化攻撃が充分想定されます。

動労千葉は、国鉄当局と一体となった動労「本部」革マル反動分子の裏切り・合理化先導路線を糾弾し、将来を展望して今回の乗務員運用合理化攻撃を最大限阻止していくために、全支部を上げて闘い、当局を追いつめてきています。

銚子支部のみなさん！

合理化に協力する裏切り分子に自からの運命をゆだねるのではなく、動労千葉に結集し、自らの生活・労働条件を守るため共に闘おうではありませんか。

11/26～28 動労千葉第四回定期大会に結集しよう！

日時・十一月二六日十二時～二八日十五時
会場・茨城県潮来町・潮来ホテル（潮来駅下車）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！